

講演 「健康長寿の福井」で自転車の復活にチャレンジ！



福井県知事
西川一誠

本日は、(財)日本自転車普及協会の御協力をいただいて、「バイコロジー・シンポジウム2009 in ふくい」を開催いたしました。30数年前に全国組織の「バイコロジーをすすめる会」が発足し、福井県でも翌年に協議会が設立されました。この協議会は、今庄町と鯖江市に事務局がありましたが、平成17年度から県で事務局を持っています。

私も5年近く前に、九頭竜川沿いで行われた「健康長寿バイスクール大会」に参加したことがあります。皆で頑張っているということなので、またこういったイベントを復活しなければならぬと思っています。

それから福井県で有名なのは、「グランfond福井」という長距離の自転車のイベントで、一種の遠のりです。全国から約2,000名が参加し、全てボランティアで運営されています。コースも様々です。8割が県外からの参加者です。県内の皆さんにも是非参加していただきたいと思います。

今日は「健康長寿の福井で自転車の復活にチャレンジ」というテーマで大会を開催しましたが、(財)日本自転車普及協会には私どもの考え方に御賛同いただき、今回福井県を開催地に選んでいただきました。厚くお礼申し上げます。

福井県健康バイコロジー推進運動



健康に良い！
リフレッシュ効果が高い！
意外に早い！
移動の自由度が高い！
利用コストが安い！
環境にやさしい！
街や自然と触れ合える！

健康長寿バイスクール大会(H17.5)



グランfond福井

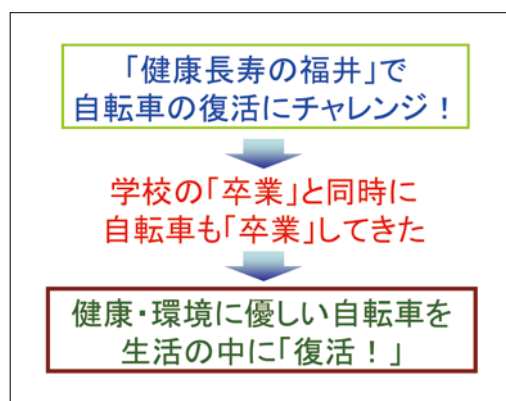


福井県は一世帯あたりのクルマの保有台数が全国1位で、農家などではトラックも入れますと一家族に5台あるほどで、通勤や買い物の際も8割以上はクルマを利用しています。クルマに頼りすぎた福井県、ちょっと乗りすぎかな、と私は思っています。もう少しクルマに頼りすぎないことが大事かと思えます。都市に住んでいる人よりも福井の人の方が自動車に頼っているという状況です。

整形外科や整骨院の先生方にお聞きしますと、自動車にばかり乗っていると、60歳あるいは70歳ぐらいになれば、女性だけに限らず、男性もひざや腰が悪くなるようです。やはり自分の足、そして自転車で動くことが重要かと思えます。

また、福井県はクルマの台数が多いだけでなく、車1台あたりの年間平均走行距離が全国に比べて1割くらい長くなっています。

そして、学校を卒業するとともに自転車からも卒業してしまう。その後はずっとクルマということで、これは問題があると思います。そうならないことが大事で、やはり生活の中に健康、環境、自転車というものを復活させることが必要だと思います。



我が家の話を申し上げますと、我が家には家族が5人いますので自転車が5台あります。時々盗難にあいますので、実際はもっと多く自転車を買っていますが、現在は5台です。私も自動車に乗る機会がありますが、どうしても自動車に乗ってばかりいると、信号が少ない方がいいとか、そんなふうに思いがちです。最近では、車に乗ったままでハンバーガーが買えるなど、そういう世の中ですが、もう少し自転車にシフトすることが大事だと思います。

知事に就任して、すぐに福井豪雨の大災害がありましたが、災害のときは自転車が力を発揮します。私も自転車であちこち災害の現場を見に行きました。道路に土砂があってジープで通れないような場所では、自転車を持って土砂のところを通り越して、また自転車に乗って現場把握を続けました。

そこで、日頃自転車に乗っていて気になることをいくつか申し上げます。

まず歩道に段差が多くガタガタするので、頭が痛くなるというのが私の経験です。それから横断歩道が交差点からかなり離れたところにあることが気になります。また、違法駐車や物が非常に多くて、そのたびに車道に出ないといけないということがあります。電柱や看板、さらには街路樹の

木が低く頭にぶつかりそうになるのですが、頭をさげながら自転車を運転して非常に落ち着かないということなどがあり、いろいろ直していく必要があります。

最近自転車で転倒されたある政党の代表の方がおられますが、私は大人になってから自転車に乗って2回転倒したことがあります。1回はちょうど今ごろの時期ですが、福井市内の社橋で、融雪の準備をしていて、身体をよけたら自転車も滑りました。あいにくその時背広を新調しており、ズボンが裂け、何万円か損失をしました。もう一回は家庭菜園をしていて、自転車の後ろに乗せた肥料の袋がずれて自転車が傾き始めました。昔ですと自転車だけが倒れるのですが、思わず身体ごと田んぼの方へ倒れてしまいました。これは車の事故よりは安全ですが、もう少しいろんな障害をなくす必要があると思います。

現在、県では自転車に乗る環境整備を進めています。県の管理道路約2,140kmのうち、市街地や学校周辺の通学路約612kmにおいて、歩行者と自転車が共に通行できる幅の歩道の整備を進めており、平成20年度までに約200kmの整備が完了しました。その他、福井県内では福井市の大和田周辺と敦賀市の松島周辺で、モデル地区として自転車専用レーンなどの整備を進めています。



一方、サイクリングロードについては、永平寺福井自転車道、北潟湖ハミングロード、丹南ふれあいスポーツレクリエーションロード、小浜大飯高浜自転車道の4箇所が整備されています。

また、今回、足羽川の激甚災害の特別事業が完了し、工事用の車両のための道路がありましたが、せっかく造ったので、元に戻すのもお金がかかりますし、皆で歩いたりサイクリングしたりするのに使おうということで、片道約6.5km、向こう岸に渡ると約13kmのサイクリングロードとしています。上流に行く時は少し昇り道になりますがほぼフラットです。2週間後には竣工式を行う予定です。



次に、私が最近ドイツとフランスに出張した時に気づいたことを申し上げたいと思います。福井県には平野があり、突き当たりに山がありますが、平野についてはオランダと同じようにフラットで、自転車としては使いやすい土地柄だと思います。

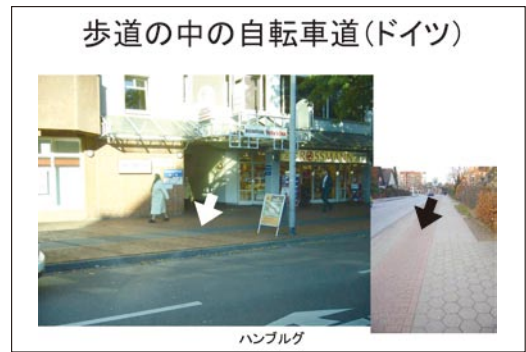
写真はドイツのハンブルク大学の近くの道路ですが、道路のすぐ横に広い自転車道があります。いろんな町を訪れましたが、そのほとんどで路面電車（トラム）が走っていますし、自転車道が広いという印象を受けました。

次の写真はドレスデンという、第二次世界大戦で建物がほとんど瓦礫になったのですが、復旧をしてきれいになっている町です。わざわざ車道の幅を狭めて自転車道がつくられていて、自動車は一方通行になっています。余談ですが、ドイツでは市内はすごく石畳が多く、靴屋さんも多いのです。なぜかと聞きましたら、靴が痛むということです。日本にいるよりも3倍靴が痛むということで、歩く時にはガタガタするけれど、自転車には非常に良いということです。

また、ドイツでは自転車で旅行することが盛んで、自転車で旅行して宿泊する「ベッド・アンド・バイク」という場所もあります。これは、イギリスの「ベッド・アンド・ブレックファスト」をもじったものではないかと思います。

有名な話ですが、ドイツでは鉄道に自転車を持ち込むことができます。本県でもえちぜん鉄道がサイクルトレインを走らせていますが、ドイツでは特急列車にも自転車を持ち込むスペースがあります。

面白い自転車の話をひとつ申し上げます。フランスにストラスブールという町があります。欧州評議会が置かれているところで、私はここで全国知事会を代表して講演を行ったのですが、お父さんの自転車の後ろにお子さんの自転車を連結して乗っているという姿を見かけました。これは、お子さんの自転車のチェーンが空回りするようなタイプのものだと思います。日本でこれを運転できるのかどうか分かりませんが、こういうものが運転できるようにして欲しいと思います。



次に中国の自転車事情について申し上げます。

写真は紹興市のものですが、中国では雨が降るとテントのような雨合羽を着て自転車に乗ります。私は10年ほど前に中国に行ったときに、青い色の合羽を100円か200円で買って来て、真ん中の息子に渡しました。息子は中学校、高校と自転車で通学していましたが、ずっとこの合羽を使っていました。写真のものに比べ、もう少し丈が長く、足のところまで雨がかからないようなものでした。最近では、中国は自動車が普及していますので、こういうものはだんだんなくなっていくと思います。



紹興市(中国)の電動自転車



中国の自転車用カッパ

日本の傘差し自転車


中国全土で使われているカッパ(写真は上海市) ← 日本

これから、福井県の自転車関連の事業についてご紹介します。

まず、「チャレンジ・自転車エコ通勤」という事業ですが、これは、春と秋それぞれ2ヶ月のうち30日を目標に自転車通勤にチャレンジする団体・企業を応援するものです。現在400名近い皆さんに参加をいただいております。特に頑張ったチームを表彰しています。また、自転車で通勤する場合、女性は更衣室があって着替えられるのですが、男性は意外と着替えにくいという問題もあります。県庁でも、先般、喫煙所だった部屋を男性用の更衣室として利用することにしましたが、民間企業にもこうした動きが広がり、できるだけ自転車に乗ってほしいと思っています。

県が進める自転車関連施策 (通勤対策)

- ・ チャレンジ・自転車エコ通勤
- ・ カー・セーブ運動
- ・ 電動自転車エコ通勤支援
- ・ 自転車通勤応援茶屋




チャレンジ・自転車エコ通勤 表彰式

期間中の取組日数、走行距離で上位となった個人・チームの方々

2点目は「カー・セーブデー」。「ドライブ・セーブ」というのが英語としては正しいのかもしれませんが、あまりクルマに乗りすぎないようにということです。毎週金曜日をカー・セーブデーに設定し、現在県内で約6,500人が参加しています。意外なことですが、参加者をみると、5 km以下のクルマ通勤者が全体の約5割ということで、こうしたクルマ通勤者を自転車通勤に変えていきたいと考えています。

毎週金曜日は「カー・セーブデー」



ポスター、名刺などに使用する全国共通のカー・セーブマーク

参加企業・団体の参加者は、カー・セーブデー当日 最大半額の運賃割引

3点目は「電動自転車エコ通勤支援」。これは、普通の自転車ではしんどいという方がおられますので、電動自転車を購入する場合に3万円の補助をするという制度です。この8月から募集を開始し、毎月10件程度の申請があります。現在までに約40件の申請をいただいております。

4点目は「自転車通勤応援茶屋」。年4回通勤時間帯にフェニックス通りなどでお茶などをサービスする茶屋を実施し、自転車通勤を応援するというものです。

5点目は「みどりの自転車」。放置自転車をリサイクルしたものを駅などに設置し自由に使ってもらっています。


6点目は本県が持っているおもしろ自転車です。本日来賓として出席いただいた唐澤様の帝人㈱にオランダから送っていただいたエコ丸くんとエコ八くん。エコ丸くんは自由にうまく乗れ、大活躍しています。エコ八くんは乗るのが非常に難しく、本当は半分に切りたいのですが、帝人㈱からいただいたものですから、そのままイベントで使っています。一方、愛・地球博でも使われた自転車タクシーも譲り受け、様々なイベントで使っています。

それから今日は、カフェ・バイク・パウロという新しいタイプの自転車を寄贈いただきました。今日出席いただいている福井鐵工㈱の佐野社長が機械づくりや自転車の専門家の社員の知識を活かして、設計・製作していただいたものです。私がANAの機内誌に載っていたオランダのピア・バイクという自転車が福井にもあると面白いと考えたことがきっかけです。今ほどアオッサの1階でお披露目、除幕式を行いました。これから皆さんにも乗っていただきたいと思います。私も先ほど、佐野社長をはじめ製作に携わった方々と一緒に乗り、コーヒーを飲みました。自転車の味がちょっとしました（笑）。

電動自転車エコ通勤 支援補助金のご案内

自動車通勤されている方へ
～電動アシスト自転車通勤を応援します！
3万円を補助します！

●補助対象となる電動アシスト自転車
 (1) 購入費1台あたり5万円以上（次の(2)および(3)に係る費用を含む）のもの
 (2) 防犯登録を受けたもの
 (3) 自転車安全整備店で整備され、第一種TSMマークまたは第二種TSMマークが貼られたもの
 ※ 購入にあたっては、県内の販売店から購入してください



自転車通勤 応援茶屋

国際交流会館前の
ローソン駐車場

みどりの自転車




帝人㈱様から寄贈いただいた 「エコ丸くん」と「エコ8くん」

平成21年度環境フェア

平成18年に寄贈を受けた際に
科学技術高校自転車部が試乗






愛・地球博でも活躍した自転車タクシー



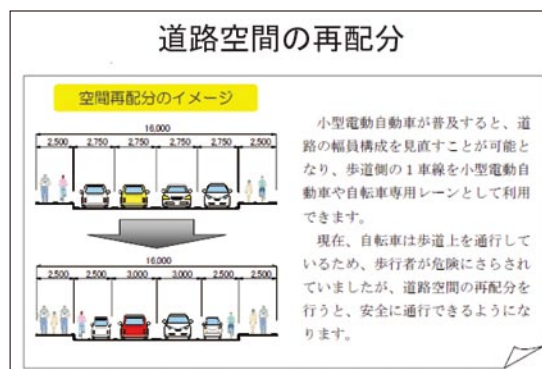
ANA機内誌に掲載されたピア・バイク

福井鐵工(株)様から寄贈いただいた
カフェ・バイクの設計図

昨日からアオッサ 1 階で、自転車の展示や自転車に関する情報提供を行うサイクルスクエアを開催しています。カフェ・バイク・パウロのほか、いろいろな自転車を展示していますので、ぜひ見学いただきたいと思います。

今後の自転車の政策ですが、鉄道と自転車、あるいはバスと自転車乗り継ぐための駐輪場の整備やサイクル・アンド・バスライドというようなプロジェクトなどがありますが、実際に実行するのはなかなか難しいものです。また、県庁の若手職員が作成した「ふくい2030年の姿」では、道路空間の再配分を提案しており、これは車道をクルマと自転車で再配分し、共有することで、安全で快適な自転車の走行空間を確保しようとするものであります。



今後、電気自動車などの普及が進むと自動車の大きさや重量が大幅に変わり、自動車や自転車の役割も変わってくると思います。そういう意味でファスト・フードという言葉がありますが、スロー・フードに対応してスロー・ドライブと言いますか、スロー・トラフィックとしての自転車の役割が重要になってきます。

今日の産経新聞によると、最近自転車の事故が多いということで、やはり歩道や車道の整備、私が日々感じている縁道の整備などが極めて重要だと感じました。また、現在日本には8,000万台以上の自転車があり、中国、アメリカに次ぐ世界第3位の自転車大国であること、一方、先進国の中で自転車事故の発生率が高いということです。この記事には偉い人ほど自転車に乗るべきだとありますが、偉いとか偉くないとか関係なく、みんなでもっと自転車に乗った方がいいと思っています。

本日はこの後、首都大学東京大学院客員教授で前の東京都老人総合研究所研究副部長の溝端先生に御講演いただき、また自転車大国オランダから大使館職員、バス・ヴァルクスさん、それから自転車を活用したシェイプアップの提案をしている絹代さんから様々なお話がいただけたと思います。バイコロジー運動の推進は、関係者、自転車販売店、本日御出席の皆さんの大勢のお力によって初めて成し遂げられるものですので、今回の運動の集大成として、更に様々な知見を活用しながらバイコロジー運動をしっかりと進めたいと思います。

終わりに、このシンポジウムの開催に御尽力いただいた阿部会長をはじめとする日本自転車普及協会の皆さまに心からお礼を申しあげ、私の講演を終わります。